

古虎溪)／土岐観察館周辺／虎溪山永保寺周辺／定林寺川合流点／白狐温泉周辺／釜戸駅周辺／水源(夕立山)



河口部ヨシ原



ふれあい橋下流



志段味ビオトープ池

【方針・取り組み】

- まとものある自然的資源(拠点)をリストアップし、それぞれの拠点について環境情報を整理する
- 市民活動団体や学校などの協力を得て定期的、継続的な環境調査を実施する仕組みを検討する。
- 拠点ごとの調査結果を基に、それぞれの拠点の位置づけや保全・管理方針など、土岐川庄内川全体の生態系回復に関する構想、計画を立案する。
- 生態系保全、市民参加による管理の「実験の場」を設ける
 - *河口部ヨシ原:ゴミ掃除、ヨシの刈り取り・ヨシ活用を含めた実験区
 - *中流部:才井戸流れ、志段味ビオトープ、桜佐など中流部河川の実験区(竹林や河畔林の手入れ、湧水・湿地の保全、池や湿地の創出など)
 - *定林寺川の合流点:湿地の整備、雑魚がいっぱいいる川づくりなど
- 庄内用水や上条用水など農業水路を、都市の新たな親水空間とする

【課題・意見】

- 河口部ヨシ原の多くが民地で刈り取りなど維持管理がなされていない。



志段味ビオトープ:竹林の手入れ



才井戸流れ



稲永公園前のヨシと水鳥

提案2 市民、学校、行政で協働して育む水辺拠点を流域に増やしていく

【趣旨】

ヨシ原の刈り取りや竹林の間伐、ゴミ掃除など、人が手を入れて育てていく活動を広げる取り組みが必要である。土岐川庄内川では、河口部でのゴミ掃除や才井戸流れ、志段味ビオトープでの活動、土岐川観察館(多治見市)で行われている日常的・継続的な活動などがあるが、このような活動に地域住民や学校、自治体などが加わり、協働して育む仕掛けや仕組みが重要である。



ヨシ舟(北上川)

【取り組み】

- 流域で活動する団体等の情報交換等を継続的に行う場を設け、緩やかな人的ネットワークを形成する
- 流域の小・中学校・高等学校の先生や生物部および地域団体の連絡網を形成する。
- 水質一斉調査や生物調査を市民や周辺の学校などに呼びかけ継続的に調査データを積み上げていく。
- 調査の過程に市民が参加することによって、それぞれの拠点を市民自らが維持管理していくきっかけを生み出すことができると考えられる。
- 学校教育や地域活動で活用できる自然資源マップあるいはガイドブック、情報誌を作る。
- ヨシ原の刈り取りとヨシ舟づくり、竹林の間伐と竹炭づくり、筏遊びなど「楽しみながら手入れする」活動を広めてゆく。



土岐川観察館



がさがさ探検:土岐川観察館



志段味ビオトープ:竹イカダ

提案3 河川の自然を回復し、水質の向上を図る

【趣旨】

瀬や淵があり、中州があり、川が蛇行している。多様な川環境があることによって川の生き物の豊かさが支えられている。河川改修によって単調になった川に多様性を回復することを河川整備計画の中に位置づけ、実現していく。
水質改善については、行政、企業、市民レベルの取り組み、特に問題となっている場所の浄化対策を検討する。



【方向性と課題】

(1) 現存する良好な自然エリアや川の多様性を保全する

- 河川整備計画では、現存する良好な河川環境を保全し必要な保全方策を講じることを盛り込む
- 護岸をコンクリートで固めるのは必要最小限にし、植栽や緑化は本来の植生の回復を基本とする。

(2) 瀬や淵など失われた川の自然と多様性を復元する

- 失われた瀬や淵、中州など川の多様性を可能な限り復元することを河川整備計画に盛り込む
- 住民はかつての瀬や淵などの情報(写真やスケッチなど)と復元に関するアイデアを提供し、行政は掘削機(ユンボ)と操作員を提供するなど、現場で話し合いながら協働して復元作業を行う(事例/栃木県余笹川)。
- 川の自然は変化することを前提に、工夫を継続する(失敗を責めない。実験的・順応的管理)。



水質生態系グループによる水質生き物調査